

寒河江市振興審議会 意見・質問票一覧

「序章」について

いくつかの問題点をふまえて新たに生まれた将来都市像明るくたくましい方向性を感じます。

12 月 22 日付の内容で大体集約されていると思えるのでこれで良いと思う。1 ~ 5 の内容、出来るだけわかりやすく要点をまとめて表現したほうが良い。1 の少子高齢化を良く説明し、その中での 2 ~ 5 の対応になるので、この辺の説明を良くしたほうが良い。“序章は重点的に”

少子高齢化に伴う人口減少の抑制を図るには寒河江市に住みたい、住んでよかったという思いを感じられる環境整備そして働ける場そして寒河江市民が輝けるスポーツ文化の場をさくらんぼを大事にしてアピールして進めていければと思います。

ex さくらんぼマラソン、さくらんぼばやしパレード、さくらんぼの加工品作り

「見直しの背景」のなかの「1 少子高齢化を伴う人口減少への対応」の部分について。

最後の方に「人口減少の抑制を図る必要があります」との記載があり、定住人口の減少抑制にとらわれているような印象を受ける。目指すべきは、人口減少社会においていかに活力を生み出していくか、豊かな社会を作り出していくか、という点にあり、その方法としては、交流人口の増加や、高付加価値産業の創出をはじめ、様々なものがあると感じさせる表現にしていきたい。

序章は、導入部になるので簡素でわかりやすいことが要求されます。このたびの資料で寒河江市の人口減少が急速に進んでいるという問題点を提示しています。この課題に対し今後寒河江市がいかなる年代の方々も住みやすくなり、人口アップの手立てをもっと明確に示す必要があると思います。他にキャッチフレーズの「さくらんぼ」に関してですが、全国的なイメージや知名度を大切に、改めて原点回帰するような表現を付け加えていただくと説得力アップすると思います。

「歴史と文化の織り成す気品漂う美しい都市 寒河江」を目標とした将来都市像の後、世の中の景気の衰退、少子高齢化、市民ニーズの多様化と目紛しく変化を遂げた中で新たな市内総生産の進捗を図る事が必要となるのでは。

園芸作物の施設化と観光農業振興により収益性の高い「寒河江型農業」の推進、

産地間競争が一段と激化する一方で、ブランド化の確立(農、産品とも)を急ぐと共に、他の追従を許さない流通市場の確立を図る行政の指針を急ぐの意味からも今回の見直しが懸かっていると思っておりますが？

2 ページ 1 の下から 2 行目「人口減少の抑制を図る必要があります」

→もう少し強調してもいいのではないかと。

「ひいては人口減少社会に耐えうる強い都市を作る必要があります」

2 計画の構成の項

- ・ (3)実施計画については、ここでの(3)の記述のみにとどまるものと思われませんが、今回の見直しに伴い、これまでの実施計画はどうなりますか。計画の形、内容、策定手続等に変更(変化)はありますか。
- ・ 重点プロジェクトとして推進されることとなる「施策」は、基本構想、基本計画に示された「施策」との関係において、どのように理解すべきでしょうか。また、この場合、実施計画でどのように取り扱うことになりますか。

「重点プロジェクト」について

課の枠を越えての取り組みはとても期待しています。是非、着実に推進していただきたい。

重点として 7 項目が上がっているが、かなり多く内容的にはかなり全般的に含まれていて多すぎるのではないか。すべて達成するには大変な感がある。少し絞り込めないか検討する必要がある。又、7 項目の中においても、あまり項目が多いと重点として取り上げるには複雑化しすぎるのではないか。

「さくらんぼのまち」寒河江の宝“さくらんぼ”これが一番大事にトップセールスをして販売促進に PR していき又さくらんぼを冷凍保存をして付加価値をつけて年中通して販売される方法も大事なのではないのでしょうか。又さくらんぼは初夏の産物オンリーでなく天童の新年のさくらんぼ出荷をも学習していけたらと思います。

又婚活を NPO 法人のような形で進行して市と市又会社と会社又はさくらんぼの季節に都会の若い女性との婚活と展開していければと思います。

審議会でも申し上げたが、「(6)雇用の確保・創出プロジェクト」のなかに、雇用のミスマッチの解消や、職場への定着の手助けになるような施策も盛り込んでいただきたい。なかなか成果の上がりにくい方法であることは理解しているが、雇用の新規創出のみを志向すると片手落ちになる。生産年齢人口の本格的な減少を前に、働きやすい職場を増やしていくことも重要と考える。

「(2)さくらんぼのまち魅力拡大プロジェクト」と「(7)寒河江の元気づくり(交流拡大)プロジェクト」は重なる点があり、もう少し整理の必要があると感じる。

「さくらんぼのまち」の魅力拡大プロジェクトの中で、さくらんぼ関連のイベントを刷新するとありますが。昔から続いている(さくらんぼパレード)についての話が一度も出ていないので、あえて、さくらんぼばやしの踊りをホームページを活用して見てもらい、市外や県外からも募集する形で参加を募り、仮装するもよし踊りをアレンジしても良いので、さくらんぼのように愛らしく見ている人達を楽しませたチームが優勝という新しいさくらんぼばやしグランプリなどという事も楽しいのではないか。

さまざまな課にまたがって重複する案件が多いようです。それなので、課単位での施策も大切ですが、枠をはらって横のつながりを密にして施策を行ってほしいと考えます。

そしてその施策を一般の方々にもっとわかりやすく表示、明示していただきたい
と思います。

国史跡指定を目指す慈恩寺は三院四十八坊をようす真言、天台兼学の古刹。どう
しても慈恩寺だけに目が行きがちですが、周辺にも慈恩寺を支える素晴らしい
里、修験道の小道、竹林に映える坊舎の白壁、醍醐地区の小道、これらの整備及
びPRが必要では。

各プロジェクトに「協働・ボランティア欄」を設けてはいかがでしょうか。

たとえば

(1) 子育て関係プロジェクト

公園整備、運営は市民との協働で行っていく

子育て支援センターの運営は市民主体で行っていく

(2) さくらんぼプロジェクト

寒河江のさくらんぼの美味しさを市民広報として情報発信する

さくらんぼがりに来た観光客をボランティアでもてなす

などなど寒河江の特徴を活かした計画内容になるのではないかと思います。

「いきいきと健やかに暮らすことのできる地域社会の創造」について

高齢化社会を支えるための福祉の充実が叫ばれています。生きなくてはいけない年令まで長生きできる今、健康で生活出来る人が一人でも多く、自立できることの大切さを痛感します。支え合うことができる豊かな風土ができますように。

“医食同源”という事を大切に小さい時から食育を浸透していただき、健康に関しては予防を大事にし医療費を予防に回す位であればと思います。生涯現役を目指せるには健康体操とか人間ドッグ・検診に重点をと願います。

市立病院経営については、医師の確保無くして経営改善は非常に難しいと思う。だがからこそ重点プロジェクトとして強力に進めることが、重要な事と思いますがいかがでしょうか。

乳幼児の医療費の無料化の対象拡大は早急を実施するべきで、そのことで寒河江市に家を建てて住もうと思う人や子供をもっと生み育てたいと思う人が増えるはず。又、H27 目標の休日保育の実施も実現できれば若い母親達も安心して土・日曜日のサービス業の仕事に従事出来ると思われれます。

支援を必要とする方(障害のある方)の労働力の場を確保し、家族の方の負担を軽減し安定した生活を送ってもらう支援がもっと必要だと思います。元気な年を重ねた方々のパワーを発揮できる体制を作る必要があると思います。そしていきいきと生活していただきたいと考えます。シルバー人材センターやその他の登録制度などを充実してほしいと考えます。

基本構想案に掲げられている内容は大変望ましい内容だと思います。が、これが基本計画の中でどう具体的に実施されていくのかだと思います。地域福祉計画や活動計画の中でより充実したものにしてほしいと思います。

「地域を元気にする産業の創造」について

食糧自給率が低い現代で地元産の農産物は一番の安心材料です。畑に連結した野菜や産地のはっきりした農産物はこれから絶対に必要です。産地間の競争に負けないブランド作りは大変なことです、是非、寒河江産に頑張ってもらいたい。歴史ある商家もあり、魅力ある人材も会社もある寒河江なので、各団体間の交流も広げて寒河江のブランドを生みだしていただきたい。

産業の振興は市民の暮らしに直結する問題なので非常に重要であるが、日本全体があるいは県自体が直面しているので簡単なことではないので、まずは寒河江で出来ること、例えば、さくらんぼの様な特産の物をとらえて進めていく必要がある。

小・中・高校生の時から、このテーマについての夏休み展のテーマとして小さい時から地域を考える能力を育て寒河江市を常に意識して産業の創造につなげられればと思います。

雇用の創出(人材の確保)では、もっと高齢者の経験活用支援に力を入れるべきだと思います。新規学卒者の就職は、待遇の良いところに偏ってしまうと思うので、人間性や経験の豊かさから元気な高齢者の方達の力を借りたほうが良いと思います。

全国的に知名度のある「寒河江のさくらんぼ」ですが、他市町との質の違いやブランド化の為の支援も必要になってきていると思います。(紅秀峰のキャラクターなど)

フローラに人の行ききを増す為に、たとえば、無償で使えるパソコンやコピー機などを設置し、寒河江市の社会教育団体や社会福祉協議会に登録しているボランティア団体などに貸し出し、それらの団体の集会や資料作りのバックアップ拠点にしたらと思います。

「やきとりバル」などのイベントに出向いてくれる方々に残念な思いをさせないように行政でもバックアップをしていただけたらと思います。

質問 6次産業化とは、どのような内容なのか。

意見 用語について、ブラッシュアップ、ホスピタリティなどの外国語が用いられていて意味がわかりません。日本語が用いるか、又は別記で用語の解説をするなど、わかりやすい表現にすべきではないか。

正統な経済論が通用しない今の世の中で人は得てして花形産業例えば IT 産業などの大企業へ目がいきがちですが、明日をもわからない昨今、基盤の強い中小の企業にも目を向けると同時に雇用の促進をも図り将来は産学官一体の寒河江工業団地特区への夢をもってはどうでしょうか。

「暮らしに便利なまちづくり」について

寒河江は高速と連結し、とても住みやすい街と思っていたが、自転車目線、歩きの小学生目線、ウォーキングの人目線となるとかなり問題がある。街灯が足りない、歩道が狭い。道路や公園等の整備には予算も必要だが、市の中心部の長岡山周辺、八幡宮周辺の整備は観光資源にも結びつくと思います。

自分達のまちづくりには、自分達でみんなで美化に子供達と共に大人も一緒にクリーン作戦をして和をもって進みたいものです。学区毎の廃品回収できれば月1回位に近づけてリサイクル運動を皆です。そうすれば学区毎の運動会とか公民館活動も充実し明るい安全な地域に展開していける基盤となるでしょう。

空き家が増えているということで、子供がいる新たな居住者には家賃を低くするなどの特典があってもいいのではないかと。(子どもの最終年令の設定は考えなければいけない)

核家族が増え共働きしないと生活できない子育て世代に対し、ほなみ団地に子育てしやすいアパートを建設し(乳幼児に優しい住まい)幼いうちだけ安く住める回転のはやい住宅を作って人口増加を図ってほしいと思います。

水道料金に関して天童よりは安いが高すぎる料金設置になっていると思います。それに業者の方に聞いたのですが、水道水により白い風呂や白い洗面器がブルーに染まるがあると聞きました。寒河江市の水道管を心配しています。

除雪ももう少し力を入れて考えてほしい(私道など)と思います。

すみません。何を持っていて暮らしに便利な街づくりとなったのか今いち理解できかねております。電気釜で炊き上げるご飯が早くて便利良いのかそれとも釜戸でじっくりと上手い飯を炊き上げるのが良いのか精神的な問題のような気もしないでもないですが

「安全安心で支え合う地域社会と快適な環境づくり」について

予測のつかない災害への危機管理の意識はとても低く、たった一晩の停電でどれ程の苦痛とストレスを味わうことが、更に情報のない事もかなりの不安を増大させるはず、予防予備の大切さを声を大にして身近なところから、まずは家庭から。命にかかわることなので防災マニュアルは早急に地域と連携して。

安全安心の基本は、防災・防犯・交通安全、そして福祉、医療関係の4本立の基に、少子化の問題に対応しながら進めていかななくてはならないのでむずかしいが、この上で進めていかなければならない。

環境美化の推進 寒河江のフラワーロード作戦は寒河江の宝だと思います。この作業を通して地域社会の和も増し、この運動を続けて良さを分かち合い地域の絆をもっと実感できればと思います。こういういいものを通して育てていければと思います。

自主防災組織が寒河江市内にどれくらいあるのかや、未組織地域がどこなのかをはっきり認識できるように市報などと一緒にチラシを作成して配布するなどしてもいいのではないかと。

寒河江市に対し愛着を持ってもらう導入として、寒河江市に就職した新人研修に寒河江市の名勝めぐりなどを市レベルで行ってほしいと思います。他に道路清掃や公衆トイレの清掃を行う企業をクローズアップし、市報などで会社を紹介し企業に元気になってもらいたいと思います。

時代はネットトラブルやさまざまな商法に巻き込まれる事例が増えているようです。これに対し相談の窓口を開設したり、相談の電話を広く明示し、おこってしまったら対処できる体制作りを考えてほしいです。

第3節基本計画案 P10

3. 目標 項目 地球温暖化対策実行計画に掲げる温暖化ガス削減目標値の達成のH27目標 「1人1日1kgCO₂削減」- 具体例として

車のエンジンを1人何分停止すれば とか市民がちょっとした注意で削減出来る具体例をあげてはどうか。

自然環境への負荷が叫ばれている昨今、温室効果ガス排出規制は一自治体の問題ばかりでなくなっている現状の中、他の自治体モデルケースを積極的に取り入れ寒河江へねづいた生活スタイルへと成長させると同時に大石田から寒河江へと走る活断層(地震調査推進本部公表)から予想されるマグニチュード7.3程度の2009

年 1 / 1 現在の 3 0 年発生確率 0.02 ~ 8% (BPT) で発生確率と相対評価では

A, 3 0 年の発生確率の最大が 3 % 以上

今後 3 0 年の間に地震が発生する可能性が我が国の主な活断層の中では高いグループへ属する。

B, 3 0 年確率の最大値が 0 . 1 % 以上 ~ 3 % 未満

我が国の主な活断層の中ではやや高いグループに属する。

C, 3 0 年確率の最大値が 0 . 1 % 未満

発生確率が不明(これまでに実施されてきた調査研究の範囲では把握できないとある)ころばぬ先の杖でハザードマップの作成他雪害等の安全危機管理の立ち上げると共に環境整備をも急ぐ。

「新しい時代を切り拓く人づくり」について

「魚捕獲・自由区域の設定」「親子交流」「下級生上級生交流」「屋外活動(ゲーム夢中子供)」「地域交流」「清流寒河江川活用」「日本一の鮎捕」

「場所」高松堰上流、上谷沢の一部、目的は別として、安全も含め完成している。水辺の学校(幸生にあり、日本で4番目完成)通年通水可能設備完了。私の知識では何処にもないと思う。

市内の学校で読書活動に力を入れていることを知りました。命と心を育む教育活動も今、とても大切なことと思います。熱い情勢が子供たちに伝わることと信じます。

図書館を利用し読書それもできれば“伝記”を大切に感想文を書いて心を育てたり、弁論部のように自己主張をし物事を深く考える場を提供したりでしょう。偉人を目指すのみでなく人づくりは家庭が基本ですので常に和を以て貴しとなすを基本に第3日曜日は家庭の日としていましたが、これを新たに見直したいものです。

今現在、どの市町村も人口減少や出生率の低下などから、大型遊具を設置した公園や乳幼児を対象にいろいろと考えているようですが、少し遅れをとっているようなので、あえて寒河江は、もっと小・中学校の教育に力を入れているという方向で教育都市寒河江をアピールしてはどうでしょうか。(学校支援ボランティア・学習補助員の配置)

また、勉強だけでなく心も体もたくましくスポーツや読書、食育など全体で考え、それだけでも寒河江が元気になるように思えます。

- ・ 現在、支援学級ではないが、普通学級でもついていけないようなグレーゾーンの子供も増えてきていると思います。そのような子供も達が中学に入る前にピックアップし親の了解をうけ集中指導するような体制が必要だと思います。中学に入ってからでは遅いので小学校のうちに学習指導員の数を増やし、普通学級で勉強に追いつけるようにする体制を作してほしいです。
- ・ 小学校の総合の時間に慈恩寺などの歴史や文化を勉強するようにしたらよいと思います。
- ・ 「アスポートさがえ」のジュニアスポーツは決った生徒しか通えない。もっと待っている人に対して広く増やしてほしいと思います。

家庭の経済の軽減の為に乳幼児の医療費の無料化がこれまでも討議されてきましたが年間にどれだけの公共の医療費の負担になるのでしょうか。それにもし医療費の負担が無いと謂った場合、寒河江市に若い夫婦の定住は減少し出生率が下がるといった現象が起こるのかどうか？

「終章」について

“自らの地域は自らの力で”の取り組みは是非市民からの声に耳をかたむけ、大変なことです。ひとつひとつに返事が必要です。リーダーとしてのお力添えをお願いします。

住民主体について色々とのべているが具体的にどういう人的な支援をするための職員か、どういう公民館機能の強化なのかをわかりやすく説明したほうが良い。

“市民が主役の町づくり”

“市民展”のように市民が参加して楽しめる開かれたものを希望します。一貫して市民がスポーツ・芸能・文化等に参加できるものを展開していければいいですね。各々の持つ個性もあります。

「第2節 未来志向の行財政運営」のなかに「PR 戦略」があることに違和感を覚える。寒河江市の“行財政”に関して“イメージアップを図る”ことを目的としているような印象を受ける。寒河江市の観光や産業を考える上でも、PR 戦略には非常に重要であり、分野横断的な統一感が必要であることも理解できるが、本章のどこかに入れることはできないのであろうか。

市役所の中に入ると建物が古いから暗く感じる。特に窓口では、明るい笑顔とあいさつをお願いできればと思います。

市長は市民の声を反映した市政を行うという姿勢を出しています。今回も何度もワークショップを行い市民との語りを大切にしています。なので、その市長を市職員もバックアップする体制がより一層重要になってきていると思います。一人一人の意識づけを徹底していただきたいと思います。

タウンミーティングでの市政参画を図り市民の声を反映し、その声にはよし悪しは別に直ぐに返答する一公聴活動の充実。地域担当を決め市民の声を反映し上記活動を図る。

・第1節基本計画、2施策、2市民の市政参加の推進の項

「市民による事業評価制度を導入」について、現時点においていかなる制度をイメージされておられますか。

・第2節基本構想、3国際交流の推進の項

「安東市(韓国)、ギレスン市(トルコ)を中心に」とありますが、いささか姉妹友

好都市に特化しすぎと思われませんが。

・第2節基本構想、5 健全な行財政運営の項

行財政改革の位置づけが、少々軽い印象を受けますが、いかがでしょう。また、地方債残高、実施公債比率は、例示だと思えますが。